

## 教員公募に係る応募書類の記入要領

### ■履歴書

#### 1. 「氏名」欄

- ・ 略字等を使用せず、住民票等に記載されている表記で記入してください。
- ・ 外国籍の方は、パスポートに記載されている表記で氏名を記入してください。

#### 2. 「生年月日」欄

- ・ 生年月日は西暦で記入してください。(以下、年は西暦で記入してください。)
- ・ 年齢は記入日現在の年齢を記入してください。

#### 3. 「国籍」欄

- ・ 外国籍の方は国名を記入してください。

#### 4. 「写真」欄

- ・ カラー、モノクロは問いませんが、サイズは4cm×3cmのもの、正面、無帽、無背景とし、写真の裏面に氏名を記入して貼り付けてください。

#### 5. 「現住所」欄

- ・ 住民登録の表記に合わせてください。
- ・ 丁目や番地等は『- (ハイフン)』で省略せず、『○丁目○番地○○号』の形式で記入してください。

#### 6. 「学歴」欄

- ・ 大学もしくは高等専門学校またはこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する方は、それらすべての学歴およびその年月を記入してください。それ以外の方については、最終学歴を記入してください。
- ・ 記入に際しては、卒業証書等を確認し、大学の学部、学科、課程、専攻、コースおよび大学院の研究科、課程、専攻、コースを正確に記入してください。
- ・ 卒業、修了、中途退学等を省略せずに明記してください。(博士課程を出て未だ博士号を取得していない方の学歴は、「単位取得満期退学」等と記入してください。)

#### 《記入例》

1971年4月 ○○大学○○学部○○学科入学

1975年3月 ○○大学○○学部○○学科卒業

1975年4月 ○○大学大学院○○研究科○○専攻 修士課程 入学

1977年3月 ○○大学大学院○○研究科○○専攻 修士課程 修了

1977年4月 ○○大学大学院○○研究科○○専攻 博士後期課程 入学

1980年3月 ○○大学大学院○○研究科○○専攻 博士後期課程 修了(または単位取得満期退学)

## 7. 「学位・称号等」欄

- ・ 学位・称号の取得状況について記入してください。授与年月日、授与大学名を明記し、学位については、名称（「〇〇博士」または「博士（〇〇）」等）を正確に明記し、学位論文題目を記入してください。なお、論文題目が英文等の場合は、和訳を併記してください。

## 8. 「職歴」欄

- ・ 非常勤講師を含めた職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても明記してください。自営業、主婦、無職等についても省略しないで記入してください。
- ・ 各職歴について在職期間が明確になるように記入してください。なお、現職については必ず「現在に至る」と明記してください。
- ・ 大学等の教員（非常勤講師を含む）の職歴については、主な担当科目を（ ）で付記してください。
- ・ 過去の文部科学省教員資格審査において教員の資格があると認められた方は、この欄に当該教員資格審査に係る審査年月、大学名、職名、および授業担当科目名を記入してください。大学院については判定結果（Dマル合、D合、Mマル合、M合、可）を明記してください。
- ・ 研究生、聴講生、留学等は「その他」の欄に記入してください。

### 《記入例①》

1980年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 助手  
1982年3月31日まで  
1982年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 講師（〇〇学）  
1987年3月31日まで  
1987年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 非常勤講師（〇〇学）  
1988年3月31日まで  
1987年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 准教授（〇〇学）  
2001年3月31日まで  
2001年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 教授（〇〇学）  
現在に至る  
2001年9月27日 大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において〇〇大学大学院〇〇  
研究科(博士課程)専任教授「〇〇学」「〇〇学特講」Dマル合の資格有りと  
判定

### 《記入例②》

1980年4月 1日から 〇〇株式会社 入社(〇〇部〇〇課配属)  
1984年4月 1日から 〇〇株式会社 〇〇部〇〇課係長  
1993年3月31日まで  
1993年4月 1日から 〇〇株式会社〇〇部〇〇課 課長  
2001年3月31日まで  
2001年4月 1日から 〇〇株式会社〇〇部 部長  
現在に至る  
2001年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 非常勤講師（〇〇学）  
2002年3月31日まで  
2002年4月 1日から 〇〇大学〇〇学部〇〇学科 非常勤講師（〇〇学）  
現在に至る

## 9. 「学会および社会における活動等」欄

- ・ 自己の専攻、研究分野、所属学会等に関連した事項について記入してください。なお、所属学会名は正確に記入してください。
- ・ 所属学会については、当該学会から退会している場合は退会日を、継続して所属している場合は「現在に至る」と明記してください。
- ・ 社会における活動とは、例えば、国・自治体等の審議会、委員会等について記入してください。

《記入例》

1980年4月 1日から ○○学会会員  
1993年3月31日まで  
1981年4月 1日から ○○学会会員  
現在に至る  
1993年4月 1日から ○○学会理事  
現在に至る  
1998年4月 1日から ○○県○○委員会委員  
2001年3月31日まで  
2001年9月 1日 ○○学会第3回○○大会○○分科会において座長を務める

10. 「その他（留学・聴講等）」欄

- ・ 留学、海外研修、聴講等について記入してください。
- ・ 留学、海外研修等については、渡航先国名、大学名または研究機関名、主目的等を明記してください。

《記入例》

1977年4月 1日から ○○国 ○○大学大学院○○研究科○○専攻 修士課程 留学  
1978年3月31日まで  
1979年4月 1日から ○○大学○○学部○○学科 聴講生（○○学）  
1980年3月31日まで  
1987年4月 1日から ○○国 ○○研究所 客員研究員（文部省在外研究員）  
1988年3月31日まで

11. 「賞罰」欄

- ・ 自己の専攻、研究分野に関連する主要なものについて記入してください。
- ・ 教育研究上の受賞がある場合には、受賞年月日、授与団体名、受賞内容等を記入してください。
- ・ 賞罰がない場合は、「なし」と記入してください。

《記入例》

2000年3月15日 日本○○学会○○賞（○○○○○○○○の功績について）

12. 「特記事項」欄

- ・ その他、特に参考となる事項があればこの欄に記入してください。

## <職務経歴書>

- 記入日現在における職務の状況について記入してください。なお、大学等で教員をされている方（非常勤講師を含む）は、「1. 現職が教員」の欄に、その他の方は、「2. 現職が教員以外」の欄に記入してください。

### 1. 「毎週担当授業時間数」欄

- 90分授業を2時間と計算し、年間で換算した場合の毎週担当授業時間数を記入してください。（コマ数では記入しないでください。）
- 前期または後期のみの授業を担当する場合は、備考欄に「前期」または「後期」と記入してください。

### 2. 「専任」、「兼担」、「兼任」の区別

- 専任の教員は、当該大学で所属する学部または学科等の授業担当については、「専任」の欄に、他学部または他学科等の授業を担当している場合は「兼担」の欄に、他大学で非常勤講師をしている場合は、「兼任」の欄に時間数を記入してください。
- 非常勤講師のみの場合は、すべて「兼任」の欄に記入してください。

### 3. 「職務内容」欄

- 現職が教員以外の方は、現在の職務内容を簡潔に記入してください。

## 《記入例》

### 1. 現職が教員（大学等での授業担当について記入[非常勤講師を含む]）

勤務先	職名	学部、学科等の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備考
				専任	兼担	兼任	計	
摂南大学	教授	理工学部 機械工学科	材料力学 I	2			2	
			機械力学	2			2	前期
			液体力学 I	2			2	後期
	兼担教授	薬学部 薬学科	地学		2		2	
〇〇大学	非常勤講師	理工学部 都市環境工学科	測量学 I			2	2	

### 2. 現職が教員以外（現在の職務状況について記入[非常勤講師等で授業を担当している場合は上記1にも記入のこと]）

勤務先	所属部署の名称	職名	職務内容 (具体的に記入のこと)	備考
〇〇〇〇株式会社	〇〇部〇〇課 〇〇研究部	課長	コンピュータを利用した〇〇〇システムの開発研究	

## ■教育研究業績書

### <教育上の能力に関する事項>（専門学校での例を含みます）

(1)「事項」の項について①

各区分に該当する担当予定授業科目に関連する「教育上の能力に関する事項」「職務上の実績に関する事項」を過去から現在まで簡潔に記入してください。

(2)「年月日」の項について②

当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。

(3)「概要」の項について③

当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

(4)「教育方法の実践例」【例1】

優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のインターネット上での公開、教育機関(司法研修所等)における教育経験、独自に開発・実践されている教育方法などについて記入してください。「概要」の項には、地位・役割・成果も記入してください。

(5)「作成した教科書、教材」【例2】

ご自身で作られた授業や研修指導等で使用される著書、教材等、について記入してください。次頁の例を参考に出版社名、内容、担当、掲載頁を記入してください。

※ 後の研究業績等に関する事項(著書・学術論文等)と重複して記入いただいて結構です。

その場合、著書・学術論文等の業績を記入する「著書、学術論文等の名称」の欄の該当著書に『(再掲)』と記入してください。

(6)「教育上の能力に関する大学等の評価」【例3】

i 以下の事項例を参考に記入してください。

① 各大学における自己点検・評価での評価結果

② 学生による授業評価(アンケート等)、教員による相互評価等の結果 ※数値化してください。

③ 学外の評価機関等が行った評価

④ 採用決定の際等における評価内容 等

ii 教育指導上の能力に関する評価(本学の所属長(予定者)による推薦文)として、自己アピールを盛り込んだ内容を、先生ご自身において記入していただくよう、追って依頼する場合があります。【例3-1】

※ 記入いただいた内容は所属長(予定者)が確認します。

※ 『教育上の能力に関する事項』であると考えられる事項については、積極的に記入してください。

(7)「実務の経験を有するものについての特記事項」【例4】

① 大学から受け入れた実習生に対する指導歴(看護・福祉実習、企業実習等)

② 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

③ 職能団体(日本薬剤師センター等)の依頼による研修指導等

④ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修

(注)「教育」や「研究」あるいは「指導経験」に関する特記事項です。

(8)「その他」【例5】

① 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等

② 国家試験問題の作成等

(9) 該当する業績がない場合は、各項目の欄に「なし」と記入してください。

(10) 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

《記入例》

①教育上の能力に関する事項		②年 月 日	③概 要
例1	1 教育方法の実践例		
	(1) インターネットおよびテレビ会議システムを利用した国際交流	平成10年4月 ～ 平成11年3月	〇〇大学、〇〇大学、〇〇大学の3大学において、学生、大学院生によるインターネットおよびテレビ会議システムを利用した…中略…。このことにより、学生、大学院生が…中略…。このプロジェクトには、〇〇大学の代表として計画から実行まで全てについて関わった。
	(2) 〇〇〇〇の導入	平成12年10月 ～ 現在に至る	授業の終了時に、学生を数名程度のグループに分け、……をさせ……をする〇〇〇〇を導入した。この〇〇〇〇の導入にあたり、……が起こらないよう……に配慮した。この〇〇〇〇の実施により、学生が自ら積極的に授業に参加するようになり、……が向上した。また、導入初年度の年度末学生アンケートでは、「前期よりも授業内容についてより理解できるようになった」「興味が持てるようになった」との声が多数寄せられた。
	(3) △△△実習における学外実習の実践	平成13年4月 ～ 現在に至る	〇〇〇学科 4年次学生(約〇〇名)に対し……研究所、×××××試験所、△△△△分析機関などにおいて、学生が約1週間にわたり学外実習を行う。その成果を大学に戻ってからまとめ、報告書および発表会(指導を受けた派遣機関の責任者の先生をコメンテーターとして参加)を行う。この派遣前の学生に対し、△△△△分野において基礎となる〇〇、〇〇、〇〇などの事前講義を外部講師によって実施した。

例2	2 作成した教科書、教材		
	(1) 〇〇〇〇ワークブック	平成8年3月 ～ 現在に至る (毎年更新)	〇〇〇〇の内容について、学生が理解しやすいように〇〇〇〇〇〇に重点をおいてこの教材を作成した。これによって、従前では得られなかった〇〇〇〇〇〇をすることが可能となった。また、この教材は、平成〇〇年〇〇月以降、〇〇〇〇〇〇として広く〇〇〇〇を学ぶ学生に活用されるようになった。
	(2) 〇〇〇論 -□□□□-	平成10年3月	出版社:〇〇書店 著書全体の概要:…………… (教科書の頁数:〇〇頁) (共著者名:……………) 担当部分の概要:…………… (担当部分の掲載頁:pp. ~ 単著/共著の別) ※記入内容の詳細については、著書等の記入例を参照してください。

《記入例》

例3	3 教育上の能力に関する大学等の評価		
	(1) 学生による授業評価(〇〇大学)  例3-1 《参考》 (2) 教育指導上の能力に関する評価 (評価者:所属長)	平成13年12月   平成〇年〇月 (提出月の1ヶ月前)	〇〇大学において、全教員を対象に授業科目ごとに学生による授業評価を行った。 [〇〇〇演習] ・よく理解できる 約〇〇% ・まあまあ理解できる 約〇〇% ・分かり難い 約〇〇% 全体の約〇〇%が理解できると回答している。 (全学平均は〇〇%) また、自由筆記には次のような意見があった。 ・話し方が明瞭で聞き取りやすい。 ・〇〇〇〇についての〇〇〇〇な説明によって、大変興味を持つことができた。 ・〇〇演習の講義を受けることにより、学習意欲や医学・医療に対する意欲が高まった。 ・学生によるプレゼンテーションが頻回に行われ、学生同士の討論がやりやすい雰囲気での講義である。  主として〇〇〇を専門とし、学会発表や論文執筆を継続的に行っており、若手の研究者として評価されている。〇〇としては、これまでに〇〇での〇〇活動をはじめ、〇〇〇〇や〇〇〇〇等、多彩な経験を積むとともに、大学院での〇〇における多くのTA指導経験、大学での教育歴もあり、十分な教育指導の実績がある。 以上から〇〇専攻(〇〇学位課程)における教育指導上の十分な能力を有するものと評価する。
所属長の評価ですが、ご自身で原案を作成ください。			

例4	4 実務の経験を有する者についての特記事項		
	(1) 〇〇大学 公開講座  (2) アメリカ合衆国※州立大学への留学	平成元年11月  平成5年4月 ～ 平成6年3月	広く一般の人たちに〇〇についての理解を深めてもらうため「〇〇〇〇における〇〇〇〇」と題して講演した。 概要:〇〇〇〇〇〇〇…中略…〇〇〇〇〇〇。  ※州立大学において、〇〇に関する研究を深めるため研究・開発に取り組んだ。主な内容としては、〇〇…中略…〇〇〇〇である。この研究成果が後に〇〇となり、〇〇において新たな開発の一步となった。

例5	5 その他		
	(1) 〇〇国家試験受験対策委員会委員	平成5年4月 ～ 現在に至る	〇〇国家試験受験対策委員会委員として、…………… ……………中略……………テキストの作成、学生指導等全てにわたり担当した。

## <職務上の実績に関する事項>

(1) 「資格、免許」【例1】

担当予定授業科目に関連する資格、免許について名称、取得年月、登録番号を記入してください。なお、学位については記入不要です。

(2) 「特許等」【例2】

特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するものについて、特許内容、特許登録番号および先生がご担当された内容や役割等について、詳しく記入してください。

(3) 「実務の経験を有する者についての特記事項」【例3】

- ① 大学との共同研究
- ② 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- ③ 各種審議会・行政委員会・各種 ADR 等の委員
- ④ 行政機関における調査官等
- ⑤ 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- ⑥ 調査研究、留学、海外事情調査等
- ⑦ 上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等があればあわせて記載してください。

(注)「教育」や「研究」あるいは「指導経験」以外に関する特記事項です。

(4) 「その他」【例4】

- ① 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- ② 論文の引用実績等

(5) 該当する業績がない場合は、各項目の欄に「なし」と記入してください。

### 《記入例》

職務上の実績に関する事項		年月日	概要
例1	1 資格、免許		
	(1) 医師免許	昭和〇〇年〇〇月	医籍登録第〇〇〇〇〇〇号
	(2) 高等学校教諭1種免許状	昭和〇〇年〇〇月	昭〇〇高1普第〇〇〇号
	(3) 第一種情報処理技術者	昭和〇〇年〇〇月	第〇〇〇〇〇〇号
例2	2 特許等		
	(1) 〇〇〇にかかる耐震装置	昭和〇〇年〇〇月 ～ 平成〇〇年〇〇月	〇〇に焦点をあて、〇〇に対する効果をあげることができ、 〇〇〇することができた。…中略…。これにより、以前に比して 〇〇〇が向上することを証明することができた。 担当部分:この研究開発にあたり、〇〇〇〇〇の中心となっ て〇〇〇〇〇を担当した。 特願昭 62-000000(昭和 62 年 10 月) 特許登録第 0000000 号(平成 7 年 3 月) ( <u>先生の名前</u> を含め、この特許に携わった方の氏名: 〇〇〇、〇〇〇〇、……)



例3	3 実務の経験を有する者についての特記事項		
	(1) ※※介護センターにおける管理運営と地域での活動	昭和 60 年 8 月 ～ 昭和 63 年 5 月	高齢者、障害者の在宅療養を支援するために社会福祉法人※※介護センターが設立された。このセンターの開設準備にあたり、中心的役割を果たした。開設後は管理者として、地域で共に働く訪問看護師等との連携を保持しつつ、〇〇〇〇〇〇を行い、〇〇〇〇〇〇に対する理解を深めるための活動を行った。
	(2) 〇〇ビルの設計等	平成 3 年 8 月 ～ 平成 5 年 7 月	第 00 回〇〇市景観賞受賞 本設計は、………を考慮に入れ提案し、設計事務所 4 社によって行われたプロポーザルコンペにおいて当選したものである。 〇〇市が街のシンボリックビルとして建設されたビル。建物と隣地の間には路地状の公開空地をとり、〇〇〇〇〇〇として市民にも公開されている。 担当部分:本プロジェクトにおいて、基本計画の段階から実施設計から監理にいたる一環のプロセスに携わった。また、プロジェクトのチーフとして中心的役割を果たした。
(3) 〇〇省………分析調査説明会において、技術専門家として調査結果についての解説を担当	平成 15 年 7 月 ～ 現在に至る	全国の民間分析機関および地方公共研究期間の約〇〇機関を対象に、〇〇省が実施している………分析調査説明会において技術専門化として参加し、該当年度の調査結果から得られた知見を解説した。	
例4	4 その他		
	(1) 広島県〇〇町〇〇島の住民との交流会に参加	平成元年11月 ～ 現在に至る	町から要請を受け、高齢者が住民の 70%を占める島で、町民のふれあいの場を設け、レクリエーション活動などを行い、老人の楽しみや痴呆予防の活動を続けてきた。 また、この活動内容を授業において学生に伝え、身近なものとして実感できるようにしている。

<研究業績等に関する事項> (「著書」・「学術論文」・「その他」)

- (1) 業績の中から、担当授業科目に関連するものを記入してください。  
記載件数についての指定はありませんが、20～30件程度を目安とし(「学術論文」は全て記載)、次に挙げた内容をご参照のうえ、「著書」「学術論文」「その他」について記入してください。
  - ※ 各「著書」「学術論文」等の名称の下に、「筆頭論文」「レフリー付き」「博士号取得論文」「口頭発表」「ポスター発表」「報告書」「総説」など、記載してください。
  - ※ 「著書」「学術論文」以外の業績は「その他」に記載してください。
  - ※ 「その他」の「学会発表」は最近のものを記載してください。
  - ※ 未発表のものは記入できません(予稿集も除く)。
  
- (2) (1)により選定いただいた「著書」「学術論文」「その他」を、それぞれ時系列にし、記入例を参照のうえ記入してください。
  - ※ 業績区分により、記載方法が若干変わりますので注意してください。
  
- (3) 査読付の論文については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
  
- (4) 業績書に記載しない業績につきましては、業績書末尾の「上記記載以外に、著書〇〇件、……」という欄に件数のみを記入してください。  
業績のすべてを「教育研究業績書」に記載されている場合は、それぞれ「0件」としてください。

## (1) 『著書』

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
－単著の場合－				
1 ① <著書の題名> 『(再掲)』	② 『単著』	③ <発行年月>	④ <出版社名>	⑤ <著書全体の概要> ⑥ <著書全体の頁数>『( 頁)』
－共著の場合－				
2 ① <著書の題名>	② 『共著』	③ <発行年月>	④ <出版社名>	⑤ <著書全体の概要> ⑥ <著書全体の頁数>『( 頁)』 ⑦ <先生を含めた編者・共著者氏名> 『(編者: 共著者: )』 ⑧ <ご担当された部分の概要> 『担当部分: 』 ⑨ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 『(pp. ～ 単著)』

## ① &lt;著書の題名&gt;

イ) 著書の題名を正確に記入してください。英語の場合は( )で和訳が必要です。

ロ) 「教育上の能力に関する事項 2.作成した教科書、教材」欄に記載された業績については、「(再掲)」と記入してください。

## ② &lt;単著/共著の区分&gt;

「単著」→当該著書の全てについて、先生がお一人で執筆された場合。

「共著」→当該著書は他の先生との共同執筆である場合。

(注) ご担当部分が単著であっても、著書全体で他の執筆者がいる場合は「共著」となります。

## ③ &lt;発行年月&gt;

イ) 当該著書の発行年月を元号により記入してください。

ロ) 発行月が不明な場合は学会や前職場等でご確認ください。

## ④ &lt;出版社名&gt;

発行元等の名称または出版社名を記入してください。

## ⑤ &lt;著書全体の概要&gt;

イ) 著書全体の概要について、200字程度で具体的に記入してください。

(注) 共著の場合、全体の概要について200字程度でまとめたうえで、担当部分について簡潔に記入してください。

## ⑥ &lt;著書全体の頁数&gt;

イ) 著書の総頁数を記入してください。

ロ) 明確に記入できない場合は、(約〇〇頁)としてください。

## ⑦ &lt;先生を含めた編者・共著者氏名&gt; 【『共著』の場合のみ必要】

イ) 著書全体についての共著者氏名を先生の名前を含め、全員の氏名をフルネームで記入してください。

(注1) ご担当部分の共著者氏名ではありません。

(注2) 先生の名前に下線を付してください。

ロ) 当該業績に記載された順に記入してください。

(英文の場合でも日本人である場合は日本語で記入してください)

ハ) 筆者が多数に及ぶ場合は、5～6人記載し、他〇〇人としてください。

## ⑧ &lt;ご担当された部分の概要&gt; 【『共著』の場合のみ必要】

イ) 先生がご担当された部分について、「章」「節」「題目」「掲載ページ」「概要」を記入してください。

ロ) 全体について共同執筆者と共同で執筆されている場合で、先生のご担当部分が特定不可能な場合は、

『担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』としてください。

(注) この場合、⑨<ご担当された部分の掲載頁と区分>については記入不要です。

⑨ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 【『共著』の場合のみ必要】

イ) ご担当部分が掲載された頁を記入してください。記載方法は「(pp.〇〇～〇〇)」としてください。

ロ) ご担当部分が単著の場合は、「(pp.〇〇～〇〇 単著)」としてください。

(注) 共著の場合は掲載頁の記載のみとしてください。

ハ) ご担当部分の概要は明記可能でも、掲載頁については特定が困難であったり不可能な場合は『(掲載頁特定不可能)』としてください。

《記入例》

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
○ 1冊の著書を1人で執筆された(「単著」)場合				
現代人の発育発達と体力	単著	昭和 63 年 4 月	三和書房	情報化や半病人社会といわれる社会現象に基づく体力減退に対応するための教育内容を導入し、……中略……身体能力の開発という目標に重点をおき、芸術的かつ平易に生体の発育発達現象を解説し、運動の効果と方法、体力の保持・増進の本質に接近しようと試みた。(220 頁)
○ 1冊の著書を複数名で執筆(「共著」)したが、担当部分はお一人で執筆され、掲載頁が特定できる場合。				
近代政治思想史(1)	共著	平成元年 12 月	有斐閣	ルネサンス、宗教改革、絶対王政の確立というヨーロッパの激動の時代に発展した近代政治思想の流れを ……中略…… したものである。(560 頁) (編集:山本太郎 共著者:山本太郎、川本祐介、田中文昭、 <u>本人(先生)の氏名</u> 、山村花江) 担当部分:題名:第 2 章「ドイツ宗教改革と政治思想の展開」 初期には改革的でありながら、……中略……遂には既成の政治思想の動きを一方では彼の宗教的前提から、他方では当時の歴史的状況から解明した。(pp.36～50 単著) ↑ご担当部分が単著の場合
○ 1冊の著書を複数名で執筆。担当部分も複数名で執筆した場合。				
診療放射線技術大系 —放射化学・放射線化学—	共著	平成 7 年 12 月	有斐閣	放射線性壊変、放射線と物質との相互作用、放射線および放射能の測定、核反応と放射性核種生成、放射化学分析の技術、放射線の化学作用とその応用、放射性核種の応用概説など放射線技術の基礎としての放射化学・放射線化学を基礎理論から放射線・核医学診療応用に至るまで体系的に記述した。(450 頁) (和田浩、宮尾真介、鈴木一郎、上野雄一、 <u>本人(先生)の氏名</u> 他 25 人) 担当部分:第三章「放射線および放射能測定」 〇〇〇に関する研究によって〇〇〇が解明され、……中略……を導き出した。(pp.135～170) ↑ご担当部分も共著の場合

○ 1冊の著書を複数名で執筆(「共著」)し、担当部分が特定できない場合。				
近代政治思想史(1)	共著	平成元年 12月	有斐閣	ルネサンス、宗教改革、絶対王政の確立というヨーロッパの激動の時代に発展した近代政治思想の流れを……中略……したものである。 (560頁) (編集:本人(先生)の氏名、山本太郎 共著者:山本太郎、川本祐介、田中文昭、 本人(先生)の氏名、山村花江) 担当部分:編者として、全体の編集を行った。 (掲載頁特定不可能)

(2) 『学術論文』

学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものについて記入してください。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
－単著の場合－				
1 ① <論文の題名> 《筆頭論文》	② 『単著』	③ <発行年月>	④ <掲載誌等名称> ⑤ <Vol. No.等> ⑥ <掲載頁> 『pp. ~ 』 ⑦ <発行所名称>	⑧ <論文の概要> ⑨ <論文の頁数>『( 頁)』
－共著の場合－				
2 ① <論文の題名> 《査読付き》	② 『共著』	③ <発行年月>	④ <掲載誌等名称> ⑤ <Vol. No.等> ⑥ <掲載頁> 『pp. ~ 』 ⑦ <発行所名称>	⑧ <論文の概要> ⑨ <論文の頁数>『( 頁)』 ⑩ <先生を含めた共著者氏名> 『(共著者: ~ )』 ⑪ <ご担当された部分の概要> 『担当部分:概要/or/共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』 ⑫ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 『(pp. ~ )/or/(掲載頁特定不可能)』

① <論文の題名>

- イ) 論文の題名を正確に記入してください。英語の場合は( )で和訳が必要です。
- ロ) 筆頭論文である場合は、『《筆頭論文》』と記入してください。
- ハ) 学位論文である場合は、その旨を併記してください。

② <単著/共著の区分>

- 「単著」→当該論文のすべてについて、先生がお一人で執筆された場合。
- 「共著」→当該論文が他の先生との共同研究である場合。

(注)当該論文のご担当部分が単著であっても、共著者がいる場合は「共著」となります。

③ <発行年月>

- イ) 当該著書の発行年月を元号により記入してください。
- ロ) 発行月が不明な場合は発行年のみの記入でも構いません。

④ <掲載誌等名称>

当該論文が発表された雑誌等の名称を記入してください。

- ⑤ <Vol. No.等>  
当該論文が発表された雑誌等の Vol. No.等がある場合は記入してください。
- ⑥ <掲載頁>  
当該論文が発表された掲載頁を記入してください。
- ⑦ <発行所名称>  
雑誌等の発行所(学会、大学等)、出版元等を記入してください。
- ⑧ <論文の概要>  
論文の概要について、200字程度で記入してください。 ※英語は日本語に直してください。
- ⑨ <論文の頁数>  
当該論文の総頁数を記入してください。
- ⑩ <先生を含めた共著者氏名> 【『共著』の場合のみ必要】  
イ) 当該論文の共著者(共同研究者)氏名を、先生の名前を含め、全員の氏名をフルネームで記入してください。  
(注1) ご担当部分のみの共著者氏名ではありません。  
(注2) 先生の名前に下線を付してください。  
ロ) 当該論文の発表時に記載された順に記入してください。
- ⑪ <ご担当された部分の概要> 【『共著』の場合のみ必要】  
イ) 先生がご担当された部分について、「題名」「概要」を記入してください。  
ロ) 論文全体について共同執筆者と共同で執筆されている場合で、先生のご担当部分が特定不可能な場合は、『担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』としてください。  
(注) この場合、⑫<ご担当された部分の掲載頁と区分>については記載不要です。
- ⑫ <ご担当された部分の掲載頁と区分> 【『共著』の場合のみ必要】  
イ) ご担当部分が掲載された頁を記入してください。記載方法は「(pp.〇〇～〇〇)」としてください。  
ロ) ご担当部分が単著の場合は、「(pp.〇〇～〇〇 単著)」としてください。  
(注) 共著の場合は掲載頁の記載のみとしてください。  
ハ) ご担当部分の概要は明記可能でも、掲載頁については特定が困難であったり不可能な場合は『(掲載頁特定不可能)』としてください。

## 《記入例》

【学術論文】				
○ お一人で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載された場合。				
多変量解析に対するユーザーのニーズ	単著	平成8年3月	行動計量学 Vol.19, No.1 pp.40～48 日本行動計量学会	現在さまざまな多変量解析法が存在する。……中略…… そのそれぞれの手法に対してユーザーはどのような点に対し使い難さ、不信心、疑問点をもっているか、それに対してどのように対応すべきかを論じた。(9頁)
○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載された場合。 (担当部分は明記できるが、頁は特定できない場合)				
物流ネットワークにおける輸送ロットサイズの決定に関する研究	共著	平成3年6月	日本経営工学会誌 Vol.44, No.2 pp.124～130 日本経営工学会	生産/物流におけるネットワークシステムを設計する。その上で、MRP/DRPの手法を用いて、最適なロットサイジングを行い、在庫削減を図るものである。(7頁) (雪村貴、伝田義則、本人(先生)の氏名) 担当部分:実態調査について、調査項目の選定から集計、図表化などを担当。 (担当頁特定不可能)

○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、学会誌に掲載され、この論文が筆頭論文の場合。 (担当部分・掲載頁が特定できない場合)				
自己資本・負債・メインバンク 借入 －日本企業の最適資本構成－ 《筆頭論文》	共著	平成 5 年 8 月	金融経済研究 第 18 号 pp.42～52 金融学会	日本企業の資本構成を新しい視点から検討した。企業の資本構成を分析するにあたって自己資本と負債の構成だけでなく、2 種類の負債(通常の負債とメインバンク借入)の構成にも注目し、簡単なモデルを使って企業の最適資本構成を考察した。(11 頁) (本人(先生)の氏名、津川文哉、山本正一) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
○ 共同で執筆された論文が、他の方の論文とともに、雑誌等に掲載された場合。 (担当部分が単著の場合)				
経営における人間疎外とその 回復のための研究	共著	平成 10 年 9 月	大阪工業大学中央 研究所報 第 7 号 pp.29～104 大阪工業大学	本研究は、企業の労働者にとっての疎外感はどこにあるのか、また、生きがいを求めているのか、企業として人間性、買う服のための経営政策としては何が有効であるかについて実態調査を通じて考察したものである。(76 頁) (堀良一、桜沢一樹、木村高、高橋肇、 本人(先生)の氏名 他 8 人) 担当部分:「題名」 担当部分の概要  (pp.84～103 単著)
○ 学位論文の場合				
多変量解析に対するユーザー のニーズ	単著	平成 3 年 6 月	[博士学位論文] 〇〇〇大学大学院 紀要 第 13 集 pp.1～122	アメリカの労働仲裁について、その変遷、機構、手続き、機能、仲裁の対象とされる紛争、立法との関係および協約との関連等に関する問題点を学説、判例を挙げて考察し、最後に西欧 5 カ国、西ドイツ、フランス、スウェーデン、イギリスおよびイタリアの仲裁制度の問題点とアメリカのそれについて比較法的見地からの検討を試みた。(122 頁)

(3) 『その他』

- I 総説、学会抄録、依頼原稿、書評等。(名称欄には当該記事のタイトルを記入してください。)
- II 口頭(報告)発表、座談会、討論等。(名称欄には当該テーマを記入してください。)  
 ※口頭(報告)発表については、「学会大会名」と「開催場所」を併記してください。
- III その他、辞典、翻訳書等。
- IV 研究費補助金取得状況等。

※『著書、学術論文等の名称』欄に、当該業績の区分(〔口頭発表〕、〔総説〕、〔事典〕、〔訳書〕etc)を記入してください。記載順序は区分ごとに分類せず、I・II・IIIのすべてを時系列に並べてください。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他)				
○ 訳書の場合 [著書の記入要領を参照してください]				
「科学の歴史」I 〔訳書〕	共著	平成 12 年 3 月	河出書房新社	自然科学の歴史を認識のパラダイムの変化という観点から取り上げ、個々の科学者に則して展望したものである。(540 頁) (著者:A.FORD) (共訳者:谷田仁志、上村加奈、 本人(先生)の氏名、林太郎 他 11 名) 担当部分:「ロージャ・ベーコン」「ルネ・デカルト」 自然科学の発展に寄与したこの二人の思想を、彼らの著作を中心として解明している。 (pp.19~25、35~47)
○ 口頭発表の場合				
① <題名> ② <区分> 『〔口頭発表〕』	③ 『単』	④ <発表年月>	⑤ <発表された会議等の名称> ⑥ <開催場所>	⑦ <発表の概要>
① <題名> ② <区分> 『〔口頭発表〕』	③ 『共』	④ <発表年月>	⑤ <発表された会議等の名称> ⑥ <開催場所>	⑦ <発表の概要> ⑧ <先生を含めた共同発表者の氏名> 『(共同発表者: )』 ⑨ <ご担当された部分の概要> 『担当部分:概要/or/共同研究につき本人担当部分抽出不可能。』
例) The effect of figural characteristics of stimulus on the illusory motion. 〔口頭発表〕	単	平成 10 年 1 月	国際心理学会 第 24 回秋季国際大会 (京都)	いくつかの運動残効実験を通して、運動情報処理システムの階層性について考察した。特に速度・方向チャンネルに対する図形特性の硬化や相対的な運動知覚の効果が追及され、高次の運動知覚のあり方が検討された。



著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
<b>【研究補助金取得状況】</b>				
○ 研究補助金取得状況 等				
① <取得研究費補助金名> ② <研究区分> 『[研究費/or/委託研究]』  ① <取得研究費補助金名> ② <研究区分> 『[研究費/or/委託研究]』	③ 『単』  ③ 『共』	④ <取得期間>  ④ <取得期間>	⑤ <取得元>  ⑤ <取得元>	⑦ <課題名> 『[課題名: _____]』 ⑧ <研究経費> 『研究経費: _____ 千円』 ⑨ <概要説明>  ⑦ <課題名> 『[課題名: _____]』 ⑧ <研究経費> 『研究経費: _____ 千円』 ⑨ <概要説明> ⑩ <共同研究者> 『(共同研究者: 田中一郎、佐藤次郎、 本人(先生)の氏名、鈴木三郎 他 11 名)』 ⑪ <ご担当された部分の概要> 『担当部分: 概要/or/共同研究につき本人 担当部分抽出不可能。』
例) 科学研究費補助金 奨励研究A [研究費]  環境庁未来環境創造型基礎 研究推進プロジェクト [委託研究]	単   共	平成 10 年 4 月   平成 16 年 4 月	日本学術振興会   環境庁	課題名: 「○○○○類の×××××におけ る△△△△△△△との関連」 研究経費: 1, 000千円 ○○○○のうち……………について、××× ××××を用いて明らかにした。さら に……………との関連を検討した。  課題名: 「○○○○物質による××××× 開発に関する研究」 研究経費: 20, 000千円 △△△△の中から○○○○を探索・改良 し、……………の手法を用いて、××××× ××の有効性を検証した。 (共同研究者: 吉田史郎、 <u>本人(先生)の氏名</u> 他 5 名) 担当部分: ○○物質による×××××開発に関 する研究において、△△△△△試験を行っ た。
上記記載以外に 著書 _____ 件 学術論文 _____ 件 その他 _____ 件 (なければ、「0」と記入してください。)				

以上